

とっとり弥生の王国調査整備活用委員会 調査研究部会（青谷上寺地遺跡第6回）議事録（要旨）

日 時：令和2年11月16日（月）午後0時20分から午後3時

場 所：鳥取市青谷町総合支所1階 第2・3会議室

参加者：【委 員】

座 長	木下 尚子	（熊本大学名誉教授）
委 員	長友 朋子	（立命館大学文学部教授）
委 員	辻 誠一郎	（東京大学名誉教授）
委 員	降幡 順子	（京都国立博物館 保存科学室長）

【事務局】

鳥取県地域づくり推進部文化財局

とっとり弥生の王国推進課

戸井課長、高尾係長

青谷上寺地遺跡整備室

北浦室長、大野文化財主事兼係長、岡野文化財主事兼係長、門脇文化財主事

むきばんだ史跡公園 瀨本係長、河合係長

【関係機関】

鳥取市教育委員会文化財課 加川係長兼文化財専門員

鳥取市役所青谷町総合支所 松原主任

議事1 副座長の選出

木下座長 昨年度に引き続き、野島委員を副座長に指名する。

議事2 第18次発掘調査の成果について

○盛土遺構について

長友委員 6段階に段階設定している造成について、短期間になされたものか。

事務局 盛土中出土土器に時期差が認められないこと、盛土中の木造構造物が埋まりきるのが盛土最終段階である段階⑥であることから、各盛土段階に時間差はほぼなく、段階①～⑥は一連の工程であると考えている。

降幡委員 盛土中出土の土器について、土器型式に差があるか。

事務局 段階⑥盛土中からは、弥生時代終末期のものが少ないながら確認されている。他の段階①～⑥盛土については、ほぼ古墳時代前期前葉に収まる。

○周辺環境について

長友委員 第18次発掘調査北側の、最も海に近いと考えられる箇所でも水成堆積は確認されていないのか。

事務局 第18次発掘調査では標高0m付近まで調査しているが、調査目標のひとつである海岸線を推定させる水成堆積は確認できなかった。このことから当時の海岸線はもう少し北側

と考えられる。

辻委員 この時代、海水準が低下していた可能性がある。古地理上の変遷を明らかにするにあたって注意していくべき。

議事3 令和2年度の発掘調査（第19次発掘調査）について

○第2面の盛土遺構について

長友委員 第19次調査区第2面について、調査区北側の黄褐色系の盛土と南側の盛土とでは様相が大きく異なる。これらの上下関係について教えて欲しい。

事務局 現在のところ平面的な検出に留まっているので、南北間の盛土について上下関係は確認できていない。今後上下関係を確認するトレンチを掘削し、その土層断面によって判断したい。

木下座長 北半部と南半部の時間的な先後関係を確認するためには、長いトレンチをどこかに設けてはかがか。少なくとも東西・南北2方向のトレンチを入れて土層を確認することは必要。

○第2面検出の遺構・遺物について

木下座長 集石・硬化面の性格解明は当地の性格を考える上で重要。第18次発掘調査区で検出されている硬化面の性格は、どのように考えられているのか。

事務局 硬化面周辺には柱痕が2基（3柱痕、88柱痕）検出されており、なんらかの関連がある可能性があるが、現段階では性格は不明。

木下座長 集石の性格を明らかにする確認をしっかりとて欲しい。

事務局 6集石の範囲を調査区を拡張して確認することについては、来年度調査の状況をみて判断していきたい。

事務局 第2面で検出されている土坑については、本日ご欠席の野島委員から土壇墓の可能性が指摘されている。土壇墓ということになると、出土遺物によっては完掘を視野に入れた調査をする必要が出てくる。この点について御意見を伺いたい。

長友委員 きちんと調査すべき。土坑の半截による調査は当然であるが、場合によっては完掘も必要。遺構の評価を曖昧なままにしておくことは良くない。遺構の性格解明を重視すべき。

○ボーリングコア解析による周辺古地形の把握について

辻委員 各調査区で確認されているのは古墳時代の人為的な堆積だが、ボーリングコアで確認されているそれらの下部は明らかに海の堆積物。弥生時代に海を埋め立てていた可能性もあるので、ボーリングコアの検討は、第18・19次発掘調査区を考える上で、非常に重要になってくる。